【ねがいましては】

平成30年10月25日 第336号 *KYOWA SCHOOL*

「挑む」

加藤一二三さん、14歳でプロの棋士になり、62年間、現役バリバリの頃は「神武以来の天才」と呼ばれたそうです。将棋の手(打ち方)には、なんと10の20乗(10000000000000000000)1垓(がい)→(万、億、兆、京の次)、生活の中でせいぜいどんなに大きくても聞くのが「京」(けい)ぐらいですから、いかに大きな数であるかが想像できます。人間の脳全体の細胞数が、約1000億個と言われていますので、そこからすると無限の世界と考えてもいいと思います。

そして1180回、この数字、実は引退されるまでに負けた数だそうです。勝たれた数が1324回、実はご本人、 負けの数を誇りにしているそうです。両方で2504回の対局をなさったことになります。

とかく勝ちを優先する社会にあって、1000回負けたときには、マスコミが数多く詰めかけたそうです。このことも加藤さんは日本の社会は健全だと言っています。日本はすばらしい。

加藤さんは対局中、行き詰まったとき、「ああ、もうダメだ」と決めつけず、別の方向からも物事をとらえ、考え直してみるそうです。大切なことは「諦めない」ことだといっています。この姿勢、何かに似ているなと思ったら、そうなんです、数学などで問題を解いているときの心境とそっくりなのです。

加藤さんの次の一手にかけた時間、過去最大で7時間だそうです。その間、相手も待っていてくれているのですが、 待っているだけではありませんよね。次はどう出るか、相手も同じように考えているはずです。

負けに誇りを持てること、これこそ真の生きることだと感じました。負けようとして挑む方はいません。勝つことを前提に向かいます。大切なのは、1対1、正面向いて戦っているということです。そこには逃げがありません。初めから逃げていたのでは、対局も実現しないし、勝ち数、負け数もありません。本気本番真剣勝負です。

学びの世界は、本来私は楽しむものと思っています。しかし現実、高校入試や大学入試など、自分自身との戦いが待ち構えています。そこへ真っ向勝負、自分をぶつけていることは、加藤さん同様、勝ち数、負け数が発生すると思います。しかし、テストが嫌いだから、入試がイヤだからといって、自分が背中を見せてしまっては、本当に人らしい生き方をしているとは言えるのでしょうか。

どんな問題なのだろう、どんな難しさが隠れているのだろうと、興味を持って向かうことは、きっと自分自身が生きてるなーと感じることの出来る瞬間かもしれません。他を一切気にせず、黙々と向かうことは、将来実社会で生きていく上できっと糧になっているはずです。

加藤さんの生き方は、「相手を意識するにあらず、自身を最大に意識せよ」と言っているような気がいたします。「おまえならどう生きる」と、常に問いながら時を刻んでいるような気がいたします。そこには逃げがない、常に前を向いている「人」がいます。

勉強に挑む・・・私の理念からすると何か矛盾を感じるのですが、現実、自分自身の成長に利用することはけっして悪いことではないと思います。私が良くないと思うのは、勉強で勝った負けたと他人と比べっこをしてしまうことです。順位もそのひとつです。それぞれが違う顔をしているのですから、それぞれの理解のスピードがあり、それぞれの納得があるはずです。「わかった」といって、そのうれしさにしっかり浸かるのもいいでしょう。家族でそのうれしさを分かち合うことも大切でしょう。

なぜか一部の保護者の方々は、我が子の間違えた部分のみに執着し、そればかりが脳裏に残り、ついつい感情をぶつけてしまう方がいるようです。子からすれば、全く逆・・・ほしいものは精一杯に向かったときの励ましの言葉。

生まれたばかりの赤子が、気がついたらなにやら言葉を発するようになり、自らの感情を発するようになり、競争社会(学校)の一員として歩むようになり・・・。そこで出会った試練に直面、よくやったと沈んだ心を甦らせてくれるはずの家族から予想もつかなかった言葉を浴びせられ、意気消沈・・・。ぼくの、わたしの味方はどこにもいないんだと、孤独感に襲われる。

まずは自分から前を向いているかどうかチェックしてみてください。であれば、誰からも苦言はありません。

微妙ですが、「やってるつもり」は、これ自分から逃げていることになります。どのようなことかと申しますと、どんな問題だろう、どんな難しさだろう、と、問題に立ち向かうこと、これしっかり向かっています。実は、向かう前にここんとこまとめておかなければ、ここをもう少しノートに写しておかなければ、などと、問題に向かうことを先送りしている状態、これやってはいるのだろうけれど、じつは、自分から逃避している状態かもしれません。

つまり、勝ち負けが何もつかない状態です。加藤さんが打ち立てた、立派な1180回の負け・・・。その足もとに も至っていない自分がいるだけです。

「負けたことなどないよ」と、言う方がいるかもしれませんが、実は1回も戦っていないからかもしれません。 それって「ひと」ですか。さて、だめでもともと・・・一歩あるのみ。